

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上 2 ICT機器の活用 3 自立と社会参加を促す教育活動の推進 4 「笑顔」のある安全・安心な学校づくり 5 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進 6 センターの機能の充実 7 仕事の効率化に努め、教職員の連携・協働を大切にする働きやすい職場づくり</p>		
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>小学部</p>	<p>児童の病気や障害の状態及び習熟度に応じて学習の目標や内容を設定し、実践することによって、児童が笑顔で学校生活を送ることができるようにします。</p>	<p>1 家庭及び医療機関等との情報交換をもとに、児童の実態や個性を把握します。 2 一人一人の実態に応じた学習目標・内容を設定し、効果的な学習方法と支援体制を工夫します。 3 児童と共に学習の成果を振り返り、自己の成長と課題を確認することにより、児童が自信をもって次の学習に向かえるように支援します。</p>	<p>1 授業の中で児童が自ら考え、意見交換を行い、考えをまとめて発表する機会を多く設定することにより、児童の協調性とコミュニケーション能力が向上しました。 2 児童の自主性を引き出すようにして文化祭で発表する映画を制作した結果、児童が互いに相談しながら、協働的に活動に取り組む姿が見られました。 3 病気や障害の状態の重度化・重複化及び多様化に加え、通常学級の児童数が減少する傾向にある中で、どのようにして集団を形成し、児童の主体的・対話的で深い学びを支援するかを工夫することが今後の課題です。</p>
<p>中学部</p>	<p>基礎的・基本的な学力の習得を確実に行うとともに、集団の中で、自らの課題に気づき、その課題を解決するための考え方や学び方を養います。</p>	<p>1 生徒の学習状況を適切に把握し、きめ細やかな指導を行います。 2 WEBチャット等のICT機器を活用し、校内教育、BS学級、施設内教育学級で同時双方向での授業を行い、集団で学べる環境づくりをします。 3 集団の中で、お互いが主体的に学び合える課題を設定し、対話的、協同的な活動の中で学びを深めます。</p>	<p>1 部、学級、個人目標を明確にし、学習活動を展開しました。また、主体的な学びにつなげるために学習集団を工夫しました。その結果、生徒が自らの課題を意識しながら学習に取り組む様子が見られました。 2 WEBチャット等のICT機器を活用した同時双方向通信の授業を行い、集団で学べる環境づくりを設定しました。その結果、自分の考えをまとめ発表する力、多様な意見に気づく力に向上が見られました。</p>
<p>高等部</p>	<p>1 各教育課程の指導内容及び指導方法について検証し改善を進めます。 2 保護者に対して、生徒の活動や授業での取組を紹介したり、健康に関する情報交換をしたりすることで、生徒・保護者ともに安心できる環境づくりに努めます。</p>	<p>1 指導内容の検証及び改善については生徒一人一人の実態を的確に把握し、個別のねらいを明確にした上で、高等部職員全体で取り組むべき課題という共通認識をもち、適切な指導が実施できるように情報交換を密に行います。 2 保護者に対して、生徒の活動の様子をメール配信システムでタイムリーに伝えたり、授業参観・懇談会や各種説明会において、丁寧に説明したりしていきます。</p>	<p>1 生徒のニーズや悩みに対して、必要に応じて保護者との懇談等を設け、情報交換を密にして対応しました。そして、得られた情報等は部会や部研修の機会を利用して職員で共有し、支援方法等を検討した結果、生徒にとってよりよい学習環境を整えることができました。 2 産業現場等における実習や校外学習等の高等部の各取組を含め、生徒の活動の様子について、メール配信システムを活用し、情報発信に努めました。生徒の活動状況をメールや写真で伝えることで、保護者と連携する環境作りができました。</p>
<p>施設内教育 名大 中京 藤田</p>	<p>保護者及び医療機関等との連携を保ち、児童生徒が安心して学べるように、個に応じた指導の工夫と充実に努めます。</p>	<p>1 保護者、病院、前籍校等と協力し合って学習環境を整え、児童生徒の実態に合わせた学習保障に努めます。 2 授業や行事等、さまざまな教育場で、ICT機器の効果的な活用を検討し、実践を重ねていきます。</p>	<p>1 ベッドサイド授業の実施や、在籍期間が短期の児童生徒への学習保障に取り組んだ結果、多くの児童生徒の未学習内容を減らすことができました。 2 施設内教育学級と本校をつないで、ICT機器の同時双方向通信の行事や教科指導等を行うことができました。また、新しく導入されたICT機器を使用して、教室内やベットのサイドで様々な学習支援を試みました。今後も工夫と検討を重ね、指導に活用できるようにしていきます。</p>
<p>訪問教育</p>	<p>1 児童生徒の実態把握を的確に行い、実態に応じた授業をします。 2 病院等の関係機関と児童生徒の情報を共有し、児童生徒が安心して過ごすことができるように努めます。</p>	<p>1 児童生徒の興味・関心や得意な活動を把握し、授業の中に積極的に取り入れます。 2 教材・教具を工夫して、児童生徒が意欲的に活動に取り組むことができるようにします。 3 病院等の関係機関との情報交換を積極的に行い、児童生徒が不安なく活動できるように努めます。 4 担当者間で児童生徒の情報を共有し、児童生徒にあった支援目標・内容・方法を検討します。</p>	<p>1 児童生徒の学習の実態を適切に把握することで、一人一人に応じた学習計画・内容で授業を進めることができました。 2 児童生徒の興味・関心を取り入れた教材・教具を準備することで、児童生徒が授業に意欲的に参加することができました。 3 病院等の関係機関と児童生徒の情報共有を密に行うことで、児童生徒が安心して授業を受けることができるようになったり、退院後、スムーズに前籍校等に復学することができたりしました。</p>
<p>総務部</p>	<p>教育活動の分かりやすい情報発信に努めます。</p>	<p>1 学校だより・校内掲示・メール配信システム等を利用して情報発信をしていきます。 2 保護者と教職員が連携し、PTA活動の企画や活性化に努めます。</p>	<p>1 必要に応じて分掌ごとにメール配信システムできるように環境を整えました。児童生徒への連絡、行事の様子などの配信に、積極的に活用されました。 2 PTA研修会では、保護者の希望が多かった「卒業生の話」や「障害者の成年後見について」の講話を行いました。参加者から質問がたくさん出て、貴重な話を聞くことができたこと好評でした。また、PTA活動ではプラ板づくり等の作業等を通し、保護者同士の交流をもつことができました。</p>
<p>教務部</p>	<p>1 児童生徒の実態に応じた学力を身に付けるため学習機会を保障します。 2 主体的に楽しく学ぶ授業を目指し指導力の向上を図ります。</p>	<p>1 児童生徒の実態を把握し、一人一人に合った指導体制・指導方法を工夫します。 2 各部、各教科における授業改善を心がけ、指導力向上のための研修機会を設けます。</p>	<p>1 入院治療の実態に対応し、受け入れ児童生徒の入院期間を概ね2週間に変更し、同時に短期入院児童生徒用の文書様式を作成し活用しました。その結果、短期入院児童生徒の支援をスムーズに行うことができました。 2 ICT機器の使用に関する研修会を計画実施しICT機器の積極的な活用を促しました。また、同時双方向型通信を活用して、児童生徒の集団形成と経験を広げることで、考えを深める授業を実践することができました。今後はさらにICT機器の活用実践を積み重ねていきます。</p>

生徒指導部	児童生徒一人一人を大切に、安心・安全な学校づくりに努めます。	<ol style="list-style-type: none"> 1 大府もちのき特別支援学校の開校に伴い、保護者送迎による登下校等の安全を確保するために、通行証を配付し、教職員が校内での送迎車の誘導を行います。 2 火災や地震、不審者侵入を想定した訓練、自転車や公共交通機関等を利用した生徒の下校指導を実施します。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 保護者送迎等による登下校時の安全を確保するために、両校の教職員が連携し事故や混乱等なく誘導できました。 2 避難訓練や不審者対応訓練を実施し、防災や防犯について検討することができました。中学部・高等部生徒を対象とした下校指導を行い、交通マナーについての意識を高めることができました。
保健体育部 自立活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育環境の整備や安全指導の充実と児童生徒の健康管理に努め、保健指導の充実を目指します。 2 家庭及び医療機関と連携し、個々の児童生徒が自己理解を深め、病気及び障害によるさまざまな困難を改善・克服することを目指し、課題に対して主体的に取り組む態度を養います。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ヒヤリ・ハット報告を集約、活用し、職員に周知徹底をすることで、事故防止に対する意識を高め、より安心で安全な教育環境を整えます。 2 医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係する機関との連携を深める中で、児童生徒や教職員が互いに安心して学校生活を送ることができるように支援します。 3 家庭や病棟と連携を取り、健康的な生活や食習慣の重要性を周知していきます。 4 個別の指導計画を基にした児童生徒の目標や活動内容が、実態に合っているか、また安心・安全な環境が整っているかを検討しながら、関係者の連携のもとに活動を進めていきます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 随時校内巡視等をし危険箇所の早期発見に努め、危険性のあるときは職員に周知し対応するなど、安全な教育環境の整備に努めました。ヒヤリ・ハット案件は昨年度より少なくなりました。 2 医療的ケアでは、他校の情報も取り入れながら安全に実施することができました。アレルギー対応については、エピペン研修会を実施し、知識と情報を全校体制で共有しました。 3 感染症の情報等を迅速に文書やメール配信システムで保護者に伝えることで、二次的な感染の予防に努めました。給食については、給食前健康チェックを習慣化することで、安全、衛生に留意し、給食の配膳活動や後片付けを行うことができました。 4 家庭及び医療機関等との連携で、児童生徒の実態に合った個別の指導計画を作成し、それを基に担当者会で支援の共通理解を図ったことで、児童生徒が自己理解を深めながら自分の課題に対して主体的に取り組むことができました。
進路指導部	児童生徒の実態と児童生徒、保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。	<ol style="list-style-type: none"> 1 学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施します。保護者に対して情報を提供し、進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。 2 地域や関係機関との連携を図り、見学、体験、実習等の活動や、進学、就労への支援が充実するよう努めます。 3 希望する進路先に対して児童生徒の実態について情報提供することで児童生徒への理解を深めていただくよう努めます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 中学部では卒業生が進学した高校から情報収集を行い、進路選択に役立てました。高等部では2年生の説明会を9月に実施し、また個別に懇談を重ねるなど早い時期からの情報提供や相談を行い、保護者との共通理解につなげました。 2 中学部の長期入院が必要な生徒については、例年より早く医療関係・学校関係等とのカンファレンスを実施し、実態に応じた支援をすることができました。高等部では、校外の実習の様子をWEBチャットで校内の生徒が視聴し、就労について学ぶ機会を設け、職業教育の充実に図りました。 3 高等学校や事業所、関係機関等と連携し、進学や就労などに関する情報収集や情報共有することを通して、協働関係の構築を進めることができました。今後も緊密な連携ができるよう努めます。
教育支援部	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の実態をふまえたきめ細かい支援をするために、教職員の研修の充実に努めます。 2 病弱特別支援学校としての、センター的機能の推進に努めます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の的確な実態把握、適切な支援につながるような研修を実施するとともに、必要な情報の提供を行います。 2 昨年度に続き、医療、教育、地域との連携を重視したセミナーを企画し、地域の教育関係者にも公開します。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 アンケートをもとに夏の研修会を計画し、実施しました。本校職員に加えて外部講師や外部機関の協力をお願いし、プログラミング教材、クラフトバンド手芸、社会人クレペリン検査等、全6講座、延べ115名で幅広い分野の研修を実施できました。 2 センター的機能の一環として、医教連携セミナーを実施しました。「アレルギー疾患の基礎知識と学校での配慮について」をテーマに、あいち小児保健医療総合センターの協力を得て、74名の参加者でテーマに沿った協議を深めることができました。 3 地域の小中学校への巡回相談や各種研修会への協力等、関係機関と連携した活動を行なうとともに、関係機関との情報交換に今後も努めます。
教育情報部	<ol style="list-style-type: none"> 1 ICT機器等の教育環境を整備し、活用しやすくします。 2 大府もちのき特別支援学校との図書館共用について整備を進めていきます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」の研究を進め、本校と病院内の教室をつなぎ、児童生徒の学習機会が広がるよう情報ネットワークを使用した同時双方向での通信を行います。 2 本校と大府もちのき特別支援学校の図書担当でミーティングを行います。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 購入したICT機器を快適に使えるように設定及び整備をし、同時双方向での通信がしやすい環境を整えました。また、研修会で使い方を職員全体に説明し、学校全体が授業で活用する場面が増えました。時間や場所による通信の不安定さの解消が今後の課題です。 2 大府もちのき特別支援学校の職員、児童生徒の図書貸し出しバーコード表を作成し、利用できる環境を整備しました。
総合評価	<ol style="list-style-type: none"> 1 個に応じた指導の工夫・改善 授業力の向上及びICT機器の活用 平成30年度入院児童生徒等への教育保障体制整備事業を文部科学省から受託し、ICT機器を活用した同時双方向型通信授業を積極的に行い、集団で学べる環境づくりや主体的・対話的な授業実践を通して、児童生徒の学びを深め学習機会を広げることができました。また、ベッドサイド授業の実施や、在籍期間が短期の児童生徒への学習保障にも取り組みました。 2 関係機関や保護者等との連携 自立と社会参加を促す教育活動の推進 医療機関・学校・保護者等と児童生徒の情報共有を密に行うことで、児童生徒が安心して授業を受けたり、退院後のスムーズな復学につなげたりすることができました。進路指導においても早い時期からの情報提供や相談を行い、自立に向けて関係機関や保護者との連携や共通理解に努めました。 3 「笑顔」のある安全・安心な学校づくり 隣接校の開校に伴い、児童生徒が安心して安全に学べるよう教育環境の整備に努めました。保護者送迎等による登下校時の安全を確保するために、両校の教職員が連携し事故や混乱等なく誘導できました。 4 センター的機能の充実 医教連携セミナーや地域の小中学校への巡回相談、院内学級や病弱特別支援学級担当者のための研修会などを実施し、県内唯一の病弱特別支援学校としてセンター的役割を果たすことができました。 5 教職員の連携・協働を大切にする働きやすい職場づくり 医療の変化に伴い、校内・施設・訪問の児童生徒の在籍数や在籍期間の差や変動が大きくなってきています。今後は、教職員の連携・協働をさらに強くして、柔軟な協力体制を構築していくことが課題です。 		

